

授業科目名	国語	担当教員名	柴田康弘	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	1年前期
<p>【授業の到達目標及びテーマ】 幼児教育に従事する保育者には、多くの資質や能力が求められる。とりわけ、この「国語」においては、表現力を中心とした分野の育成を重視し、以下に記すテーマや到達目標への取組みを演習形式で実践する。 ①豊かな言葉の世界を獲得することを通して、伝えることのできる資質や能力を養成し、コミュニケーション能力の育成を図り、保育者としての適切な国語力や文章表現力の向上を図る。 ②読み聞かせ等にも取り組み、話す力・聞く力の分野の育成を図り、ひいては、児童文学や児童文化への理解の促進を図る。とりわけ、我が国の伝統的なものや文化への理解を深め、その伝達・伝承を図る。 ③保育者として必須の連絡帳、日誌、園だより、報告書などの表現面においてその基礎的な能力が備わるように取り組む。</p> <p>【授業の概要】 ①国語全般に関する基礎的な理解と知識を深める。 ②効果的な表現力を養う上で、その基本的な技術などを学習し、「ことば」に対する関心や興味を高める。 ③園だよりや連絡帳、日誌、手紙、メール文などの実践的な表現力を高める。 ④毎時間、指定本読み・書き取り・基本的なマナー等をテキストに沿って行い、文章構成等の表現に取り組む。 ⑤幼児教育の専門家として、読み聞かせ力や伝え合う力の育成を図り、同時に児童文学や児童文化への理解の促進と自己の感性を高めるべく取り組む。 以上の5点を中心にして、演習形態での授業とする。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション・国語概論				【事前】 指定本に目を通す。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第2回	国語表現：絵と文章説明 本読み・漢字と音訓・仮名				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第3回	国語表現：文章教室Ⅰ・表現 本読み・五十音図・いろは歌				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第4回	国語表現：文章教室Ⅱ・表現 本読み・送り仮名・現代文法				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第5回	国語表現：文章教室Ⅲ 本読み・待遇表現Ⅰ（敬語法）				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第6回	国語表現：文章教室Ⅳ 本読み・待遇表現Ⅱ（敬語法）				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第7回	国語表現：文章教室Ⅴ 本読み・日本昔話				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第8回	国語表現：文章教室Ⅵ 本読み・日本昔話・マナー				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第9回	実務の力を高めるⅠ・公用文・手紙文・メール文				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第10回	実務の力を高めるⅡ・記録文・日誌・レポート等				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第11回	実務の力を高めるⅢ・実習日誌作成・実習準備等				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第12回	実務の力を高めるⅣ・実習日誌作成・実習準備等				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第13回	児童文学・文化への理解Ⅰ				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第14回	児童文学・文化への理解Ⅱ				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第15回	言葉遊び ① 文字・言葉遊びの発展 ② 会話・表現・理解力を育てる				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
<p>【学生に対する評価】 定期試験(60%)、課題・提出物(20%)・授業への取組み・受講態度(20%) 上記による総合評価</p>									

【テキスト】

作成プリント教材

「保育の基本用語」改訂2版（長島和代編 わかば社） 「保育のマナーと言葉」改訂2版（長島和代編 わかば社）

【参考書・参考資料等】

「論理が伝わる『書く技術』パラグラフ・ライティング入門」倉島保美著 講談社ブルーバックス

【学生へのメッセージ】

○宿題が出た場合、その提出期限は守ってください。また、欠席の場合は、授業内容について必ず確認をしてください。

【備考】

実務経験：昭和57年4月より平成29年3月まで（33年間）福岡県公立高等学校の教諭・教頭・校長歴任。

平成28年4月より平成29年3月まで（1年間）私立常磐高等学校 講師として勤務。

平成29年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園 園長として勤務。

令和5年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 校長として勤務。

【担当教員の連絡先】

担当教員E-mail: shibata@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail;

授業科目名	幼児と言葉	担当教員名	柴田 康弘	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	1年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>現代社会における幼児の言語発達に係る実態や課題を把握し、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいを理解する。また専門領域に関する研究成果を踏まえ、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びを通して具体的な保育の場面を想定し、子どもたちの言葉を豊かに育てる基本的な実践的方法を身に付ける。</p> <p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が遊びを通して学び、身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域「言葉」において、幼児が身に付けていく内容と小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 幼児の言葉の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して基本的な実践方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼児の発達や興味、関心等に即した保育の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の現場での実践に活用することができる。</p> <p>3) 幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 保育実践とその振り返りを通して、自らの保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、自らの保育の質の向上に取り組むことができる。</p>									
【授業の概要】									
<p>幼稚園教育要領「言葉」のねらい及び内容の基礎的内容について学ぶ。子どもの言葉の発達過程を理解し、具体的な指導を想定して言葉の育ちを促す保育教材の製作等を行う。また、授業で学んだことを活かし、附属幼稚園の幼児への「おはなし会」を行い、グループワークでの教材研究や模擬保育、終了後には振り返りを行い「コミュニケーション能力の育成」「子どもへの配慮・思いやり」「観察眼の育成」を目指す。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	幼児教育の基本と領域「言葉」				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	言葉を豊かにする保育環境				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第3回	言葉の発達を促す児童文化財 (紙芝居の実際)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第4回	言葉の発達を促す児童文化財の実際 (「紙芝居」の教材研究・グループワーク)				【事前】紙芝居の実演の準備、練習 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	領域「言葉」のねらい及び内容の理解				【事前】幼稚園教育要領解説の指示された箇所を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	乳児期の「言葉」と他領域との関り				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第7回	言葉を育む環境と援助① (気になる子どもへの言葉の発達のサポート)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第8回	言葉を育む環境と援助② (日本語を母語としない子どもへの関りを考える)				【事前】テキストの指示された箇所を通読しておく 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第9回	子どもの言葉の世界を広げる言葉遊び				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】手作りカルタ作りの制作				
第10回	5歳児の言葉を育てる指導の実際 (附属幼稚園「おはなし会」に向けて5歳児の幼児理解)				【事前】手作りカルタの発表準備 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第11回	5歳児の言葉を育てる指導と指導計画 おはなし会での指導案の作成、教材研究・グループワー				【事前】児童文化財の準備、配布資料の通読 【事後】グループワークの内容をもとに指導案の作成				
第12回	5歳児の言葉を育てる指導計画の構想 (「おはなし会」のシミュレーションと改善)				【事前】指導案の作成、シミュレーションの準備 【事後】シミュレーションを振り返り、指導案の改善				

第13回	5歳児の言葉を育てる指導計画の実践 (附属幼稚園交流授業「おはなし会」の実施)	【事前】 「おはなし会」の準備、シミュレーション 【事後】 「おはなし会」の振り返りと自己評価の記入
第14回	5歳児の言葉を育てる指導計画の実践の評価と改善 (附属幼稚園交流授業「おはなし会」の振り返り)	【事前】 自己評価を発表できるように整理しておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成
第15回	まとめ：子どもの言葉を育み、豊かにする保育 (「言葉」をめぐる現代の課題をICTにて調べる)	【事前】 配布資料を通読、ファイルをまとめ提出 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成
【学生に対する評価】 授業への取組み（グループワーク・教材製作・模擬保育など）（30%）、授業レポート（授業の学びの振り返り（復習）と次回の授業に向けて（予習））（20%）定期試験（50%）等による総合評価		
【テキスト及び参考書】 <テキスト> 保育内容「言葉」太田光洋他（同文書院） 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館） 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館） <参考書・参考資料等> 「絵本は心のへその緒」松居直（NPOブックスタート）		
【学生へのメッセージ】 授業では、資料も配布します。ファイルを準備してください。授業の初めには前回の授業の復習も行います。		
【備考】 実務経験：昭和57年4月より平成29年3月まで（33年間）福岡県公立高等学校の教諭・教頭・校長歴任。 平成28年4月より平成29年3月まで（1年間）私立常磐高等学校 講師として勤務。 平成29年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園 園長として勤務。 令和 5年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 校長として勤務。		
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail：shibata@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail：		

授 業 科 目 名	幼児と表現（造形）	担 当 教 員 名	加来 栄治	単 位 数	1	授 業 区 分	演習	開 講 時 期	1年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>(1) 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。</p> <p>2) 表現を生成する過程について理解している。</p> <p>(2) 「表現」領域と5領域のつながりに気づき、遊びと設定型の二つの場面で、より効果的に「表現」活動を支援できる保育の場を生み出すことができる。</p> <p>1) 「表現」領域のひろがりにつながりに気づくことができる。</p> <p>2) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p>									
【授業の概要】									
<p>本授業では、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付けることを目標としている。幼児の表現を理解するためには、保育者自身が十分に感性を働かせて表現活動を楽しむことが重要であり、造形表現に苦手意識のある学生も、自ら手を動かし、感じることから始めたい。楽しさを感じられるようになれば、研究心も高まり、幼児の表現への理解や学びも深まっていく。また、他者の表現に興味・関心をもち、互いの表現について受け止め合い、伝え合うことを通して、幼児の表現が生まれる過程に連動させ考察していく。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 表現とは一領域「環境」と「言葉」のつながりについての考察				【事前】「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第2回	オペレッタについて				【事前】 クラスの役割分担を基に準備内容を把握する。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第3回	オペレッタについて				【事前】 クラスの役割分担を基に準備内容を把握する。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第4回	手作り玩具①				【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第5回	手作り玩具②				【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第6回	手作り玩具③				【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第7回	手作り玩具④				【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第8回	保育室の環境構成（壁面制作）①				【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第9回	保育室の環境構成（壁面制作）②				【事前】 グループで話し合い壁面制作の内容を決める。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第10回	保育室の環境構成（壁面制作）③				【事前】 グループで協力して壁面制作の準備をする。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第11回	保育室の環境構成（壁面制作）④				【事前】 グループで協力して壁面制作を進める。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第12回	保育室の環境構成（壁面制作）⑤				【事前】 グループで協力して壁面制作を進める。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第13回	お店屋さんごっこの取り組み①				【事前】 事前告知の活動内容を基にイメージを膨らませる。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第14回	お店屋さんごっこの取り組み②				【事前】 グループで協力して制作を進める。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
第15回	授業のまとめ				【事前】 授業の内容を各自をまとめる。 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する。				
【学生に対する評価】									
<p>毎回の作品やワークシート提出（50％）、レポート提出（20％）、グループワークを含めた授業への積極的な取り組み（20％）、授業のための資料や材料収集、アイデアスケッチ等の準備を含めた予習復習課題（10％）等による総合評価</p>									

【テキスト及び参考書】

「保育をひらく造形表現」(榎 英子 著) 萌文書林

授業中に適宜資料を配布する。

「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) (フレーベル館)

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレーベル館)

【学生へのメッセージ】

- ・鉛筆、のり、はさみ、カッターを、筆箱の中に常備しておいてください。
- ・課題により上記以外の必要な道具や材料があれば、事前に伝えますので忘れないよう準備してください。
- ・授業を心から楽しむために、絵の具等で汚れても良い服装(作業着エプロン着用可)で受講してください。
- ・授業をより有意義なものにするために、あらかじめアイデアスケッチ等を予習・復習のための課題にすることがあります。

【備 考】

実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。

令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。

令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授 業 科 目 名	保育実習 I (保育所)	担 当 教 員 名	榎本 郁美	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	1 年 後 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 保育現場において、既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。									
【授業の概要】									
・実習は、保育実習での意義や目的を理解するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。併せて、子どもの最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・この実習を通して学んだ課題を明確化し、次回の実習へ前向きに取り組めるようにする。									
【授業計画】									
第 1 週	①保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり実習施設について理解する。								
	②保育所保育指針に基づく保育の展開 保育所の一日の流れを理解し、参加する。								
	③子ども理解 子どもの観察とその記録による理解 (観察の視点を学び、観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する。)								
	④子どもの理解 子どもの発達過程の理解 子どもの援助や関わり								
	⑤保育の計画に基づく保育内容 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。								
	⑥子どもの発達過程に応じた保育内容 子どもの生活や遊びと保育環境								
	⑦記録や保護者とのコミュニケーションを通して、保護者支援や家庭地域社会を理解する。								
	⑧子どもの健康と安全について理解する。 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。								
第 2 週	⑨専門職としての保育士の役割と職業倫理・保育士の業務内容を具体的に学ぶ。職員間の役割分担や連携・協働								
	⑩保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価								
	⑪他者評価と自己課題 自己との向き合い方 (次の実習に向かうための) (実習期間) (実習園) 別途記載する。								
【学生に対する評価】									
実習園の評価をもとに事前指導・事後指導の取り組み状況などの総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館) 「保育所保育指針解説書」(平成30年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「幼稚園教育要領解説書」(平成30年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「保育実習(保育所)の手引き」(北九州保育福祉専門学校編) 「保育方法・指導法」(ミネルヴァ書房)									
【学生へのメッセージ】									
・保育実習期間中の、質問や疑問、様々な不安などは、一人で抱え込むことのないよう担当に相談してください。実習園においても、学校においても、「報告、連絡、相談」を常に心がけましょう。(担当者への連絡や着信への応答はメールで済ませない。) ・保育実習という大切な機会を活かし、多くの子どもと関心をもって、接するように心がけましょう。 ・実習では、子どもの興味や関心、発達の状態を知り、子どもへの理解を深めましょう。 ・保育士という専門職の理解や保護者支援について学ぶことが出来るよう意欲的に実習に臨みましょう。									
【備 考】									
実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。 平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士(産休代替職員)として勤務。 平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士(産休代替職員)として勤務。 平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士(嘱託職員)として勤務。 平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。 平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。 令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。 ※戸惑いや緊張感を少しでも緩和するべく、事前に乳幼児の発達に対する学習は必要です。また、皆の前で、自分の考えていることや思いが伝わるように発言する事も大事です。声の大きさの調整に気を配りましょう。									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail: enomoto@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail:				

授業科目名	保育実習指導 I (保育所)	担当教員名	榎本 郁美	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	1年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 保育の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益を考えプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所での保育実習の意義や目的を理解すると共に、保育所における子どもの人権や、最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できるようにする。 ・ 実習の計画、実践、観察、記録、自己評価の方法や内容について、観察眼を育成しながら具体的に理解できるようにする。また、子どもの主体性や心の動きを捉えられる感性の大切さに気づかせていく。 ・ 保育参加・補助の方法・子ども理解の方法等DVD等も活用しながら理解できるようにする。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い自己課題を明確化し、次の実習に繋がられるようにする。 									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 保育実習の意義 プライバシーの保護と守秘義務			【事前】 手引きに目を通す。 【事後】 授業の振り返りと全国保育士会倫理綱領の確認。					
第2回	(1) 実習の目的 DVD視聴 (2) 実習の概要 保育所の生活とあそび			【事前】 手引きを通し、実習の目的・施設の概要を読んでおく。 【事後】 DVD視聴振り返り 保育所の生活等の学びを整理する。					
第3回	観察実習事前指導 観察の視点・子どもの人権と最善の利益の考慮			【事前】 手引きの保育所観察実習についてを読んでおく。 【事後】 授業の振り返り。観察について「実習日誌の書き方」を読む。					
第4回	観察実習事後指導 実習における観察、記録及び評価			【事前】 日誌、自己評価、アンケート等書いておく。 【事後】 授業内容の整理・復習・今後の手順を押えておく。					
第5回	保育実習 I (保育所) の課題・実習日誌記入の仕方 (2歳児演習)			【事前】 観察実習を踏まえ、手引きの保育実習 I を読んでおく。 【事後】 授業の振り返りと2歳児の日誌を書く。					
第6回	手遊び、読み聞かせ演習			【事前】 お気に入り絵本 (未満児向け) を読み込んでくる。 【事後】 手遊び3つを覚える。(観察実習) 授業内容を整理する。					
第7回	実習日誌の書き方 (5歳児演習)			【事前】 5歳児の日誌の環境整備と援助・配慮を整理し、記入し直す。 【事後】 授業内容 (保育者○・実習生●分けて書くことに慣れる)					
第8回	教材作り (パネルシアター)			【事前】 パネルシアター色塗り、切り離しを終えておく。 【事後】 グループで演習をする。					
第9回	グループワーク (パネルシアター演習)			【事前】 効果的な発表の仕方を研究する。 【事後】 振り返り。					
第10回	保育実習 (保育所) の課題・指導案の作成 実習における計画と実践			【事前】 保育実習 I に向けての自己課題を明確にする。 【事後】 指導案の仕上げをする。					
第11回	グループワーク (素話発表)			【事前】 冬休み期間中に素話 (昔話) を覚える。 【事後】 振り返り。素話を3つ選び、覚える。					
第12回	グループワーク (模擬保育)			【事前】 指導最案を見ることなく行えるようにシミュレーションの練習。 【事後】 評価と振り返り。					
第13回	保育実習 I (保育所) 事前指導 (外部講師による実習直前授業)			【事前】 振り返りを基に再度教材研究をする。 【事後】 特別授業の振り返り。					
第14回	保育実習 I (保育所) 事後指導 実習の総括と自己評価 課題の明確化			【事前】 日誌の仕上げ、自己評価、アンケート等を書いてくる。 【事後】 今後の流れを押え、お礼状の清書をしておく。					
第15回	実習報告会			【事前】 各園の特色を整理しておく。 【事後】 次の実習に向け、自己課題を明確にする。					

【学生に対する評価】

受講態度、教材用作品（パネルシアター）演習、実習に対する取り組みや意欲・日誌・指導案・提出物これらによる総合評価 ※ 手遊び、あそび歌、わらべ歌、素話等学生の前で発表する機会を多く取り入れ、評価する。

【テキスト及び参考書】

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「実習日誌の書き方」「保育指導案大百科事典」（一藝社）

「新聞紙で遊ぼう」（かもがわ出版）

「保育方法・指導法」（ミネルヴァ書房）

【学生へのメッセージ】

目の前の課題に真摯に取り組むことで、振り返ると必ず、自信につながっていきます。一つ一つ小さな積み重ねが、あなたの未来を拓いてくれます。

保育者としてのスキルを一つ一つ身に付け積み重ねていくことで、自信に繋がり、モチベーションも上がります。後ろ向きでなく、やるべきものとの自覚で目の前の一つひとつ丁寧にやり遂げてください。結果は、後からついてきます。

【備考】

実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。

平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士（産休代替職員）として勤務。

平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士（産休代替職員）として勤務。

平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士（嘱託職員）として勤務。

平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。

平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。

令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。

※乳幼児の発達の理解の重要性が分かり、学び取る努力をすること。内容総論の授業内容や子どもの発達を常に意識すること。各授業内で学んだうた遊びやわらべ歌、作成した折り紙や、ウレタン人形など活用する努力を惜しまない。事前準備、事前学習、授業振り返り、グループワークは、毎回行うので、プリント類のファイルの仕方を工夫すること。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:enomoto@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授 業 科目名	保育内容総論	担 当 教員名	後藤 伸子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育内容」の関連を理解する。									
2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。									
3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。									
4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。									
【授業の概要】									
・動画の視聴や事例の検討を通して、保育現場の生活や遊びの中で、子どもがどのような経験をしているか、それが5領域のねらい・内容とどのようにつながっているかについて学ぶことができるようにする。また、保育者としてどのように子どもの発達を捉え、保育内容、保育環境の構成、援助の在り方等を実践していくかについて理解できるように授業を展開する。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 保育内容総論の理解のために				【事前】 シラバス・教科書の序章を読んでおく。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第2回	なぜ保育内容総論を学ぶのか 「総論」であることの意味・保育の場が目指すこと・ 保育内容を総合的に捉える				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第3回	保育内容の歴史の変遷とその社会背景				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第4回	子どもの発達や生活に即した保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第5回	養護と教育の一体性とは				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第6回	子どもの生活と保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第7回	子どもの遊びと保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第8回	環境を通して行う保育 DVD視聴				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第9回	保育における「領域」①				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第10回	保育における「領域」②				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第11回	多様な保育の場における保育内容①				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第12回	多様な保育の場における保育内容②				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第13回	様々な配慮を要する子どもの保育				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第14回	小学校との接続				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				
第15回	現代社会の特質と保育内容				【事前】 授業内容について教科書を熟読する。 【事後】 授業を振り返り理解を深める。（ノート等の整理）				

<p>【学生に対する評価】 定期試験(60%)、小テスト(20%)、発表など受講態度(10%)、提出物(10%)による総合評価</p>
<p>【テキスト及び参考書】 「演習 保育内容総論」(萌文書林) 「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(チャイルド社) 幼児理解に基づいた評価(平成31年3月 文部科学省)(チャイルド社) 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月) 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)</p>
<p>【学生へのメッセージ】 学生の皆さんの主体的な学びの交流が生まれるようグループワーク等の機会を多く取り入れていきます。保育内容を総論として捉えることの意味を理解し、「目指す保育者像」・「求められる保育者」を共に考えていきましょう。なお、単位取得をするうえで1コマの授業につき90分程度の事前事後学習が必要です。事前学習として教科書に目を通して授業に臨むこと、事後学習として授業で配布した資料等をもとに復習することを習慣としていきましょう。教員と学生、学生同士の対話を通して、学び合える授業にしていきたいと考えています。</p>
<p>【備考】 実務経験：昭和55年4月より令和2年4月まで(39年間)、社会福祉法人北九州市福祉事業団の保育所にて勤務。 令和3年4月より現在に至るまで、本校専任教員として勤務。 ※授業プリントは、丁寧にファイリングしましょう。提出していただき評価いたします。</p>
<p>【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:gotou@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:</p>

授業 科目名	乳児保育 I	担 当 教員名	榎本 郁美	単位数	2	授業 区分	講義	開講 時期	1年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割などについて理解する。									
②乳児の成長発達に即した保育の基本を理解する。									
③健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。									
④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。									
※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。									
【授業の概要】									
人の一生は、乳幼児期にどんな大人と関わったかで大きく左右されるといわれる。									
保育所は一日の大半を過ごす大切な場所であり、保育者と関わる時間は長くその役割は重要なものである。									
責任の重さも計り知れないものがある。そのことを深く認識するために保育所保育指針に学びながら、発達の主な特徴を知り乳児の生活を理解した上で、保育者の適切な援助を学習する。子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び、温かな人間性と諸科学の理論に裏付けられた保育実践を身に付ける。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 乳児保育の意義（歴史と現状）				【事前】 シラバスに目を通しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第2回	乳児の生活 保育のねらいと内容				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第3回	演習（手作り玩具作り）				【事前】 0歳児の玩具について事前に調べておく（ICT活用） 【事後】 発表に向けて自主的に練習しておく				
第4回	乳児の基本 （乳児の主体性を尊重した生活と遊び）				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第5回	乳児保基本 （フォトラーニング・グループ討議と発表）				【事前】 フォトラーニングについて調べておく（ICT活用） 【事後】 授業の振り返りをする				
第6回	乳児の基本 （一人ひとりの子どもの発達を理解する）				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第7回	乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第8回	乳児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第9回	生活や遊びを通しての保育とその環境 （日課-ディリープログラム-）				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第10回	生活や遊びを通しての保育とその環境				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第11回	生活や遊びを通しての保育とその環境				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第12回	保育の計画と記録（グループ討議・作業）				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 グループで演習する				
第13回	協働の中の保育の実践（職員間）				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第14回	協働の中の保育の実践（地域・保護者）				【事前】 教科書を読み事前に学習しておく 【事後】 授業の振り返りをする				
第15回	求められる保育像について（グループ討議・発表）				【事前】 求められる保育像について自分の考えをまとめておく 【事後】 授業の振り返りをする				

<p>【学生に対する評価】 定期試験(70%)、提出物(10%)、受講態度(20%) これらの総合評価</p>
<p>【テキスト及び参考書】 「改訂 乳児保育の基本」(萌文書林) 「離乳食マニュアル」(北九州市福祉事業団) 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館) 「はじめて学ぶ 乳児保育」(同文書院) 資料配布</p>
<p>【学生へのメッセージ】 乳児保育とは何か?一般的に「乳児」とは、学問や法律の世界では、1歳までの子どもの事です。また、この時期の子どもは”赤ちゃん”とも呼ばれます。保育の現場では、3歳未満児を「乳児」と呼んでいます。 保育は環境を通して「養護と教育」を一体的に行うことを求められています。保育士は、遊びや生活の中で環境を整え必要な援助を行わなければならないのです。 あなたの身近に赤ちゃんはいますか? これから一緒に学んでいきましょう。</p>
<p>【備考】 実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。 平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士(産休代替職員)として勤務。 平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士(産休代替職員)として勤務。 平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士(嘱託職員)として勤務。 平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。 平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。 令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。</p>
<p>【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail：enomoto@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail：</p>

授業科目名	幼児理解と実践	担当教員名	加来 栄治 (他)	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	1年 通年
【授業の到達目標及びテーマ】									
①幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて理解する。									
②遊びや生活を通して幼児と関わる中で幼児の発達の実情を知る。									
③幼稚園教諭の専門性に触れながら、幼稚園教諭の職務内容及び役割等に関して体験を通して知る。									
【授業の概要】									
この授業では、年間を通して継続的に、附属苅田幼稚園の子ども達と交流をしていく。自由な時間の遊びの中で子どもと触れ合い、一緒に遊びを共有していくことで子どもを知り、理解していくことを目的とする。また、苅田幼稚園の教師と子どもの関わりを間近で観察することで、幼稚園教諭の専門性に触れながら実践力を高めしていく。学生は、観察した内容や学びを記録する方法とその意味を理解し、次年度から始まる教育実習に向けて自己の課題を見つけていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	附属苅田幼稚園オリエンテーション				【事前】身だしなみを整え持ち物、質問内容を確認しておく 【事後】オリエンテーション内容の確認、報告書の提出				
第2回	第1回体験実習(子どもとの関わりについて)				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく 【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第3回	第2回体験実習(教師の助言、言葉かけについて)				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく 【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第4回	第3回体験実習(運動会の練習見学)				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく 【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第5回	第4回体験実習(子どもの発達について)				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく 【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第6回	第5回体験実習(子どもの発達について)				【事前】準備物の確認、授業のねらいの確認をしておく 【事後】実習記録を振り返り、自己の課題を明確にする				
第7回	実習の振り返り、記録について (ICTを利用し、保育における記録について調べる)				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料の発達について通読し、授業レポートの作成				
第8回	附属苅田幼稚園での設定保育見学実習				【事前】配布資料等を通読し、授業のねらいを確認しておく 【事後】授業記録と実践指導計画案を参考に、指導計画案を考える				
第9回	まとめ、附属苅田幼稚園卒園式の練習見学				【事前】配布書類等を通読し、授業のねらいの確認をしておく 【事後】教育実習に向けて、記録と指導計画の準備				
【学生に対する評価】									
実習、授業への参加度(70%)、提出物(実習記録、ファイリング等)(30%)による総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社)									
「幼稚園教育指導資料第1集」指導計画の作成と保育の展開									
「幼稚園教育指導資料第5集」指導と評価に生かす記録									
「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)									
「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)									
【学生へのメッセージ】									
朝の検温、実習エプロン、体育館シューズ、帽子等、忘れ物がある場合、見学参加となります。また、子ども達と触れ合いますので、頭髪、服装、爪等、身だしなみを整えておきましょう。									
実習後には苅田幼稚園の主任の先生と振り返りの時間があります。疑問や質問など積極的に聞いていきましょう。									
【備考】									
実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。									
令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。									
令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。									
※体験実習を行う際は、1回の授業を2コマ続けて(180分)実施する。									
開講回数が限られているため、欠席のないように。									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail:kaku@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail				

授業科目名	言葉指導法 I	担当教員名	柴田 康弘	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>幼児の言葉に関する実態や課題を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた上で、具体的な保育の場面を想定し保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼児の発達や興味、関心等に即した保育構造の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>3) 幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 保育実践とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>									
【授業の概要】									
<p>領域「言葉」の指導の理解を深め、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。「言葉」の機能を理解したうえで、幼児にとっての「児童文化財」の意義を理解し、紙芝居や絵本・言葉遊び等の実践に取り組む。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする。教材や実践に関する知識を身に付ける。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	幼稚園教育要領「言葉」と評価について				【事前】 幼稚園教育要領解説(範囲は事前に提示)を通読しておく 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	実習を通して体験した子どもの言葉の育ちと課題についてのグループ討議(実習記録などを準備)				【事前】 実習日誌、記録等の準備 【事後】 グループワークでの内容をまとめ発表準備				
第3回	実習を通して体験した子どもの言葉の育ちと課題についてのグループ発表				【事前】 発表資料の作成、準備 【事後】 他のグループの発表内容をまとめ、授業レポートの作成				
第4回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する①(オペレッタの制作)				【事前】 オペレッタ制作の準備 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する②(オペレッタの実演)				【事前】 オペレッタ実演の準備 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する③(オペレッタの振り返りと評価)				【事前】 オペレッタの振り返りを記入しておく 【事後】 授業レポートの作成、授業レポートの作成				
第7回	言葉に対する感覚を豊かにする実践①:「紙芝居」(日本文化と紙芝居の実際、乳児)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業レポートの作成、遊びを復習する				
第8回	言葉に対する感覚を豊かにする実践②:「紙芝居」(日本文化と紙芝居の実際、幼児、児童)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業レポートの作成、遊びを復習する				
第9回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践の構想(かるた遊び)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 創作かるたの制作				
第10回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践の実践(創作かるた遊び)				【事前】 グループでかるた制作、資料準備 【事後】 他のグループの発表内容について授業レポートの作成				
第11回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財(幼児の年齢や時期を考えた物語の発表)				【事前】 クリスマス絵本の準備 【事後】 授業レポートの作成、演習内容の復習				
第12回	言葉による「伝え合い」を育む保育者の関りの実際(DVD視覚教材から学ぶ)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業レポートの作成、演習内容の復習				
第13回	言葉と国語教育(幼児教育から小学校の教科のつながり)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第14回	幼児の話し言葉と書き言葉の実際(附属幼稚園年長児と触れ合い交流授業)				【事前】 配布資料を通読し、交流授業のねらいの確認 【事後】 交流会の振り返りの記入、授業レポートの作成				
第15回	豊かな言葉を生み出す基盤				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料をまとめ、授業レポートの作成				

<p>【学生に対する評価】 授業への取り組み（グループワーク・教材製作・模擬保育など）（30%）、授業レポート（授業での学びの振り返り（復習）と次回の授業に向けて（予習）（20%）、定期試験（50%）等による総合評価</p>
<p>【テキスト及び参考書】 <テキスト> コンパス 保育内容「言葉」第2版(建帛社) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)（フレーベル館） 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) <参考書・参考資料等> 「ことばの発達の謎を解く」今井むつみ（ちくまプリマー新書）</p>
<p>【学生へのメッセージ】 授業では、資料も配布します。ファイルを準備してください。授業の初めには前回の授業の復習も行います。</p>
<p>【備 考】 実務経験：昭和57年4月より平成29年3月まで（33年間）福岡県公立高等学校の教諭・教頭・校長歴任。 平成28年4月より平成29年3月まで（1年間）私立常磐高等学校 講師として勤務。 平成29年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園 園長として勤務。 令和 5年4月より現在に至るまで、学校法人戸早学園 北九州保育福祉専門学校 校長として勤務。</p>
<p>【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail：shibata@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail：</p>

授業科目名	幼児理解論	担当教員名	後藤 伸子	単位数	2	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>授業を進めるにあたっては、学生が積極的に参加するよう討論形式や保育カンファレンスなどのグループを中心とした授業形態を考えている。以下の5点を目標にして取り組む。</p> <p>①保育を行うには、まず一人一人の子ども理解に努めることが出発点であることを学習する。</p> <p>②子どもの思いや育ちを丁寧に捉え、その内実を理解し、援助のあり方を考えていくことを学習する。</p> <p>③子どもが見せる姿や行為、育ちを読み取る視点と保育者の関わりが関係していることを学習する。</p> <p>④子ども理解を深める観察や周囲との連携の取り組み方など、保育者の専門性の根幹について学習する。</p> <p>⑤幼児教育の現状と課題を認識し、保育者としての心構えに関する基礎力を育成する。</p>									
【授業の概要】									
<p>保育を志している学生には必修科目であるこの科目を通して、幼児理解の基本、保育者としての姿勢について学び、よりよい保育を創り出すための意識を高めることが出来るようにする。その中で、子ども一人一人を理解し評価することは、保育者自身を振り返り評価することにつながることを理解し、将来幼児教育に携わる者としての自覚をもたせたい。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 保育における子ども理解の意義				【事前】	教材の準備、確認をする。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第2回	子どもに対する関わりと共感的理解				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第3回	子どもの生活や遊び				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第4回	保育における人的環境としての保育者と子どもの発達				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第5回	子ども相互の関わりと関係づくり				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第6回	集団における経験と育ち				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第7回	発達における葛藤やつまずき				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第8回	保育の環境の理解と構成				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第9回	環境の変化や移行				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第10回	子ども理解のための観察・記録・省察・評価				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第11回	子ども理解のための職員間の対話				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第13回	発達の課題に応じた援助と関わり				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第14回	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。			
第15回	発達の連続性と就学への支援				【事前】	教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。			
					【事後】	試験に向けて全体の振り返りをする。			
【学生に対する評価】									
定期試験(60%)、課題レポート(20%)、受講態度(20%)等による総合評価									
【テキスト及び参考書】									
参考図書									
「幼児理解に基づいた評価」(平成31年3月 文部科学省)(チャイルド本社)									
「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(令和3年2月 文部科学省)(チャイルド本社)									
「指導と評価に生かす記録」(平成25年7月 文部科学省)(チャイルド本社)									
「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)									
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)									

【学生へのメッセージ】

2年生は実習学年といわれように、子どもと多く触れ合う機会があります。その中で、疑問に思ったこと、対応に困ったことなどを授業中に積極的に話題提供し、学びをより深められるように記録をしっかりとっておきましょう。また、授業を自分のものにするために、視点をもって子どもを見るようにし、子どもの内面理解に努めましょう。子どもを理解することは、保育者自身の関わりに目を向けることでもあります。保育は相互理解であり、保育者は子どもと共に育つ関係にあると思います。授業を通して「自分を知る」ことも大切です。

【備 考】

実務経験：昭和55年4月より令和2年4月まで(39年間)、社会福祉法人北九州市福祉事業団の保育所にて勤務。

令和3年4月より現在に至るまで、本校専任教員として勤務。

※授業プリントは、丁寧にファイリングしましょう。定期的に提出していただき、評価させていただきます。

【担当教員の連絡先】

担当教員E-mail : gotou@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail :

授業科目名	教育実習指導 I	担当教員名	加来 栄治	単位数	0.5	授業区分	実習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。									
②教育実習 I に向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を身に付ける。									
③教育実習を通して得られた知識及び経験を振り返り、今後身に付けることが必要な知識及び技能等を理解する。									
【授業の概要】									
この授業は、幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が有意義に行われるように、事前の心構えや指導計画の作成、事前・事後指導を行うものである。									
教育実習 I では、子どもや保育者の観察に重きを置き、①子どもの発達を知る、②子どもの行動と保育者の援助の意図を探る、③保育の流れや段取りをつかみ、保育技術を高めることを重点目標とする。									
幼児の実態に触れ、実習園の様々な幼児教育の取り組みを理解したうえで、自分で考え、行動し、自ら創る学びを大切にしてほしい。また、実習を経験しての振り返りから自己の課題を見出し、次回の教育実習 II へとつなげていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	教育実習 I の意義と目的、内容理解			【事前】 テキスト6P～15Pを通読しておくこと					
				【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第2回	附属幼稚園入園式実習			【事前】 身だしなみを整え持ち物、実習内容の確認					
				【事後】 実習記録と振り返りの記入					
第3回	附属幼稚園入園式実習の振り返り、子どもの発達の理解			【事前】 テキスト18P～28Pを通読しておくこと					
				【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第4回	教育実習における事前指導①(書類準備等)			【事前】 教育実習の手引きを通読し、教育実習において自己の目的を考える					
				【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第5回	教育実習における事前指導②(実習日誌の書き方)			【事前】 テキスト114P～130Pを通読しておくこと					
				【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第6回	指導計画の作成の方法 (ICT等を利用し調べる)			【事前】 幼稚園教育要領解説96P～120Pを通読しておくこと					
				【事後】 年齢別の指導案の作成					
第7回	子どもの行動と保育者の援助とその意図			【事前】 配布資料を通読しておくこと					
				【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第8回	模擬保育 (グループでの研究)			【事前】 指導案確認と教材、シミュレーションの準備					
				【事後】 シミュレーションの振り返り、指導案の改善					
第9回	教育実習直前指導			【事前】 教育実習の手引きの通読、実習内容の確認					
				【事後】 日誌、実習内容の確認、持ち物等の準備					
第10回	教育実習事後指導			【事前】 日誌の内容、配布資料の記入、提出物の確認					
				【事後】 実習先への日誌の提出、報告書の記入					
第11回	実習体験の報告や実践発表 (実習報告会)			【事前】 実習内容をまとめ、自己評価の記入					
				【事後】 報告会の記録、内容のまとめ、資料提出					
第12回	教育実習の自己評価と課題			【事前】 教職履修カルテの記入と自己課題の整理					
				【事後】 教育実習 II に向けて、指導計画の準備と課題の確認					
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「教育実習の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）

幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」「幼児理解に基づいた評価」（文部科学省）

「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」（チャイルド本社）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

【学生へのメッセージ】

附属幼稚園の卒園式見学に続き、入園式実習を行います。幼稚園生活をスタートする子どもとそれを迎え入れる教諭や園の環境構成等の様子が分かる貴重な機会です。その場で感じたことなど体験を実習に活かしてほしいです。実習開始までの1ヵ月間を有意義な時間とできるよう準備を早めに行い、分からないことや不安なことは担当まで相談にきてください。

【備 考】

実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。

令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。

令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail： kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授 業 科目名	教育実習指導Ⅱ	担 当 教員名	加来 栄治	単位数	0.5	授業 区分	実習	開講 時期	2年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。									
②教育実習Ⅱに向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を身に付ける。									
③教育実習を通して得られた知識及び経験を振り返り、教員免許状取得にまでにさらに身に付けることが必要な知識及び技能等を理解する。									
【授業の概要】									
学内で学んだ理論や技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を幼稚園の現場で養い、そして身に付けた知識をより確かなものにしていくことを目的としている。									
また新しい幼児教育を研究し、一人一人の子どもに寄り添い、日々の変化と成長を感じ取れる職業である幼稚園教諭のやりがいと責任、専門性を理解するとともに自己の課題を明確にしていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	教育実習Ⅱのオリエンテーション (授業内容の概要・幼稚園教諭の職務と役割)			【事前】教育実習Ⅱにおける自己の目的を考えておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第2回	教育実習Ⅰの振り返りと課題の確認			【事前】教育実習Ⅰの振り返りと自己課題の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第3回	教育実習の意義と目的			【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第4回	記録の書き方① (子どもの主体性の育ちと保育者の関わり)			【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第5回	記録の書き方② (子どもの社会性の育ちと保育者の関わり)			【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第6回	模擬保育①(教材研究、グループ研究)			【事前】年齢別の指導案の作成 【事後】指導案の教材研究と改善					
第7回	模擬保育②(グループ発表、振り返り)			【事前】指導案確認と教材、シミュレーション準備 【事後】シミュレーションの振り返り、指導案の改善					
第8回	教育実習直前指導			【事前】教育実習手引きの通読、実習内容の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第9回	教育実習事後指導			【事前】日誌の内容、配布資料の記入、提出物の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第10回	実習体験の報告や実践発表 (実習報告会)			【事前】実習内容をまとめ、自己評価の記入 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第11回	教育実習の自己評価			【事前】教職履修カルテの記入と自己課題の明確化をしておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第12回	教育実習の総まとめ			【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)

「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) (フレーベル館)

幼稚園教育指導資料第1集 「指導計画の作成と保育の展開」「幼児理解に基づいた評価」(文部科学省)

「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社)

【学生へのメッセージ】

教育実習Ⅱは、実習の集大成として取り組んでください。幼稚園の行事の見学やお手伝い等、実習生として積極的に行動していくことが大切です。実習を重ねる中で出会った子ども達や先生方の姿から、自分がなりたい理想の保育者を目指して実習に臨んでほしいです。

【備 考】

実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。

令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。

令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。

※この授業は2年前期より実施します。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授業科目名	教育実習 I	担当教員名	加来 栄治	単位数	2	授業区分	実習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ②保育に必要な基礎的技術(話法、保育形態、保育展開及び環境構成等)を実地に即して身に付ける。 ③幼稚園教諭の役割、及び職務内容を实地に即して理解する。 ④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。									
【授業の概要】 実習は基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼」の育成を目指して行う。 実習は、見学・観察実習、参加実習、指導実習など様々な形式で行う。幼稚園での保育に積極的に参加し、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と役割や幼稚園教諭の職務内容を学んでいく。 更にこの実習を通して学んだ自己の課題を明確化し、幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。									
【授業計画】									
実習園における2週間の実習内容は以下の通りである									
第1週									
)	1. 幼稚園の生活と一日の流れを理解し、保育内容について学ぶ								
	2. 観察と記録、遊びや生活を通して幼児の発達や特性を理解する								
	3. 幼児に対する関わりや保育に必要な基礎的技術等を身に付ける								
第2週	4. 幼児の実態等を踏まえた指導計画を作成し、保育を実践する								
	5. 社会人としての基本的なマナーを学ぶ								
【学生に対する評価】 実習中の意欲や態度(20%)、実習日誌等の提出物の状況と内容(30%)、実習園からの評価(50%)を併せた総合評価									
【テキスト及び参考書】 「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) 「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社) 「楽しい音楽表現」(圭文社) 「こどものうた200」(チャレンジ本社)									
【学生へのメッセージ】 教育実習という貴重な体験を生かし、多くの子どもと積極的に触れ合い、子どもの興味や関心、発達を知り、子どもへの理解を深めてほしいです。また、幼稚園教諭の職務を理解し、社会人としての基本的なマナーや「報告」・「連絡」・「相談」(ほう・れん・そう)を厳守することを心掛けましょう。									
【備考】 実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属荻田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。 令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。 令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。									
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp									
学校専用E-mail：									

授業科目名	教育実習Ⅱ	担当教員名	加来 栄治	単位数	2	授業区分	実習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①個々の幼児の発達、内面の変化、個性の理解を深め、適切に幼児と関わることができる。 ②幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ③幼稚園教諭の役割及び職務内容を実地に即して理解し、他の教職員との連携を身に付ける。 ④保護者や地域の子育て支援、幼児期の教育のセンターとしての社会的役割を学ぶ。									
【授業の概要】 基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼」の育成を目指す。又、幼稚園の通常の教育活動及びそれ以外の行事等の活動を通して、教育的愛情や教育に対する使命感や責任感を養うことをねらいとし、実習園の行事や実習生の状況に応じて、観察・参加実習、責任実習など様々な形で実習を行う。 この実習を通して学んだ自己の課題を明確化し幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。									
【授業計画】									
	実習園における2週間の実習内容は以下の通りである								
第1週	1. 幼稚園教諭としての必要な知識、能力、技術を習得する 2. 幼児の発達、内面の変化、個性についての理解を深める 3. 教職員との連携、協力体制の重要性について理解する								
第2週	4. 観察と関与、記録、指導計画に基づく実践を通して保育技術の伸長を図る 5. 地域の子育て支援、幼児期の教育センターとしての社会的役割を理解する								
【学生に対する評価】 実習中の意欲や態度(20%)、実習日誌等の提出物の状況と内容(30%)、実習園からの評価(50%)を併せた総合評価									
【テキスト及び参考書】 「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) 「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社) 「楽しい音楽表現」(圭文社) 「こどものうた200」(チャイルド本社)									
【学生へのメッセージ】 教育実習Ⅰと同じ実習園で行います。その為、子どもたちの成長に大いに喜びを感じる実習であり、行事等の関わりを通して子どもの発達や幼稚園教諭の職務をより理解することができます。臨機応変に対応する行動力や積極性も求められます。「自分が今できることは何か」を考えて、実習先の教諭と相談しながら積極的に行動していきましょう。									
【備考】 実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属荻田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。 令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。 令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。									
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp									
					学校専用E-mail：				

授業科目名	教職実践演習（幼）	担当教員名	加来 栄治（他）	単位数	2	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習、保育実習等の現場体験の成果を振り返り、既習の授業や活動を通して教員としての資質が身に付いているか等、学生が自己の課題に気づき問題解決していく。									
②教員になる上で、不足している知識や技能等を補い知識・技術や教養の定着を図る。									
③学生一人一人の履修を把握し、将来幼児教育に携わる者としての自覚や実践的指導力を身に付ける。									
【授業の概要】									
授業を進めるに当たっては、一人一人の学生が積極的に学習内容に関われるよう、グループを中心に展開し、コミュニケーション能力や観察眼の育成に努める。大きくは以下の3点の内容をもとに取り組む。									
①乳幼児の理解を深めることを通して、学級経営力や人間関係能力の育成。									
②乳幼児の発達と保育内容との関連を学ぶことを通して、幼児期にふさわしい生活の具現化の考察。									
③具体的な事例をもとに、教員としての責務及び役割について考察。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション、既習の授業や教育実習Ⅰでの学びの成果と課題の把握（履修カルテを持参）			【事前】 教職履修カルテの記入をしておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第2回	教育実習Ⅱの振り返り（実習記録などを準備） 教育実習Ⅱを通しての自己課題の確認			【事前】 実習日誌、実習記録等の準備 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第3回	教育実習Ⅱを通して体験した事例についてのグループ討議（討議内容をまとめ、発表準備）			【事前】 自分の実習内容をまとめておくこと 【事後】 授業レポートの作成、発表準備					
第4回	実習を通して体験した事例についてのグループ発表			【事前】 発表内容をまとめておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第5回	教職の意義・役割・職務内容についての確認			【事前】 ITC等を使用し、教職について事前に調べておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第6回	指導案の作成			【事前】 年齢別の指導案の作成 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第7回	指導案の仕上げ及びグループ内でのシミュレーション			【事前】 年齢別の指導案の作成 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第8回	模擬保育発表①			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第9回	模擬保育発表②			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第10回	模擬保育発表③			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第11回	模擬保育発表④			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第12回	模擬保育発表⑤			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第13回	苧田幼稚園における模擬保育発表			【事前】 実践発表の準備 【事後】 実践発表の振り返りと自己評価を記入					
第14回	苧田幼稚園にて設定保育1・2限			【事前】 実践発表の準備 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第15回	幼稚園の基本を踏まえた教育の大切さの確認・まとめ			【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、課題レポートの作成					

【学生に対する評価】

発表内容（40%）、提出物（40%）、受講態度（20%）などによる総合評価

【テキスト及び参考書】

幼児理解に基づいた評価（文部科学省）、適宜資料を配布

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月 文部科学省）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）

【学生へのメッセージ】

グループ活動や保育案づくり、設定保育などを通して、他の人の考え方に触れ、自分自身の課題を確認するとともに課題解決のために、積極的にコミュニケーションを図ったり、他の人の良いところを自分の中に取り込んだりするようにしましょう。

【備考】

実務経験：平成12年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校附属苅田幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。

令和5年4月より令和6年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて非常勤講師として勤務。

令和6年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校にて専任教員として勤務。

【教員の連携・協力体制】

※幼稚園や保育所の実習担当教員、教科担当とも連携し、演習の推進に当たる。また、附属幼稚園の先生方の協力を得て、より具体的な実践演習や保護者との対応なども取り入れる。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授業科目名	保育実習Ⅱ	担当教員名	榎本 郁美 (他)	単位数	2	授業区分	実習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 一人一人の子どもの観察や関わりの視点を明確にし、発達や個性を捉え保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び、自己評価等について実践に取り組み、理解を深め指導技術を習得する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士として自己課題を明確化する。 									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育士として必要な姿勢や態度及び指導の方法・技術等を習得するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への配慮・思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。 ・ 「保育実習Ⅰ（保育所）」での保育所実習の経験をもとに、自ら実習先保育所を選択して実習することにより、保育所の目的と機能、課題等より深く理解する。また「養護と教育が一体的に行われる」という保育の原理や社会的役割を具体的実践から学び取る。 									
【授業計画】									
第1週	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開を学ぶ。○保育全般に参加し、保育技術を習得する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を学ぶ。特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 3. 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する。 4. 子どもの家庭とのコミュニケーションの方法や保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実際を学び理解する。 5. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。 6. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の在り方を学ぶ。 7. 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者に対する支援の実際を理解する。 								
第2週	<ol style="list-style-type: none"> 8. 保育士の業務と職業倫理を理解する。多様な保育の展開と保育士の業務・職業倫理を理解する。 9. 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 <p>（実習期間）（実習園）別途記載する。</p>								
【学生に対する評価】									
実習園の評価をもとに事前指導・事後指導の取り組み状況を合わせた総合評価。									
【テキスト及び参考書】									
「実習日誌の書き方」（一藝社）「保育指導案大百科事典」（一藝社） 「全国保育士倫理綱領ガイドブック」（全国社会福祉協議会） 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」「認定こども園教育・保育要領」「認定こども園教育・保育要領解説書」（フレーベル館）「保育実習（保育所）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）									
【学生へのメッセージ】									
保育実習Ⅱでは、保育所の役割や機能、保育の計画－実践－記録と省察について、実際に体験しながら理解を深めることが求められます。これまでの既習科目と保育実習Ⅰでの実習経験をふまえて、総合的に保育をとらえる意識を実習に臨みましょう。また、「入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援」や関係機関や地域社会との連携・協働については、特に積極的に実習園の先生方にお尋ねしないと理解や学びを深めることが困難です。自ら学ぼうとする意欲、指導を素直に受け止める態度は、実習生として大切な姿勢です。また、「保育者は、子どものモデルである」ことを日ごろから十分に意識し、物事の捉え方、言葉遣い、所作を意識しましょう。学生同士で成長し合える授業にしていきたいと思います。									
【備考】									
実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。 平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士（産休代替職員）として勤務。 平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士（産休代替職員）として勤務。 平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士（嘱託職員）として勤務。 平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。 平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。 令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。 ※保育実習Ⅰの自己課題を踏まえ、Ⅱの実習に反映させる必要があります。実習の目的と内容は、連続性を持ちながら発展していくものとなっています。より充実した実習内容となるよう努力していきましょう。									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：enomoto@tohaya.ac.jp						学校専用E-mail：			

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	担当教員名	榎本 郁美	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①保育実習Ⅰ（保育所）の自己課題を踏まえ、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。養護と教育が一体的に行われる保育の基本原理や社会的役割を具体的実践から学び取る。									
②保育の計画、実践観察、記録等について実際に行う中で、理解を深め指導技術を習得できるようにする。									
③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。									
④一人一人が発表する場を設け、表現力や実践力が養えるようにする。									
⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。									
【授業の概要】									
・実習という具体的な実践の中で、子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解や保育所の役割機能についての理解が深められるようにする。									
・既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について総合的に学ぶ。									
・保育の計画を立て、実際に設定保育を実践する。記録には、的確な記述が求められるが、その為の観察眼の育成やコミュニケーション能力の育成に努める授業の中で、自分とは違う他者への思いやり等の育成に努める。									
・具体的な実践と結び付ける中で、保育士の業務内容や、職業倫理について学びを深めるとともに保育士としての自己課題を明確に意識できるように努める。									
【授業計画】					（事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容））				
第1回	オリエンテーション（授業内容の概要等について） 保育実習Ⅰの振り返り				【事前】保育士会倫理綱領（P10～P34）を読んでおく。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。				
第2回	保育実習Ⅰの振り返り及び実習報告会				【事前】保育実習Ⅰの振り返りと自己の課題の確認する。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。				
第3回	課題作品を使つての演習				【事前】課題作品を使つての演習の練習 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。				
第4回	保育実習Ⅱの意義と目的				【事前】保育実習Ⅱも自己評価表を見直しておく。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。				
第5回	実習日誌の書き方について①				【事前】「保育指導案大百科事典」第1・2章を読んでおく。 【事後】「保育指導案大百科事典」第1・2章を読み理解する。				
第6回	設定保育について				【事前】「保育所保育指針」第1章総則を読んでおく。 【事後】子どもの主体的活動を促す遊びについて整理する。				
第7回	子どもの主体性を育てる保育とは？				【事前】「保育所保育指針」第1章総則を読んでおく。 【事後】「保育所保育指針」の指定された箇所を読んでおく。				
第8回	子どもに応じた適切な関わり				【事前】授業の振り返り「保育所保育指針」第2章を読む。 【事後】授業の振り返りとまとめをする。				
第9回	実習のための書類作成				【事前】「実習の手引き」の紹介表、誓約書等の書き方を読んでおく 【事後】下書きの清書を仕上げしておくこと。				
第10回	シミュレーション（模擬保育）				【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。				
第11回	シミュレーション（模擬保育）				【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。				
第12回	シミュレーション（模擬保育）				【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。				
第13回	実習直前指導				【事前】「実習の手引き」の指定された箇所を読んでおく。 【事後】指導案見直しをする。				
第14回	事後指導①（課題の明確化）				【事前】実習施設及担当教員に提出する書類を整えておく。 【事後】お礼状の清書、封筒あて名書き投函準備をする。				
第15回	事後指導②（実習報告会）				【事前】報告会準備をする。 【事後】教育実習Ⅱに向けた自己課題の明確化				
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説書」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」（フレーベル館）
「実習日誌の書き方」「保育指導案大百科事典」（一藝社）
「新聞紙で遊ぼうⅡ」（かもがわ出版） 全国保育士会倫理綱領ガイドブック（全国社会福祉協議会）

【学生へのメッセージ】

受講、実習に対する意欲や積極性は、何より大事です。また、実習内容のⅠとⅡの違いをを明確に意識し、連続性を持たせながら実習内容が深まり、確かな保育力に繋がるよう努力してください。結果として、自分の保育者としての自信に繋がることを信じて頑張りましょう。

※事前学習や事後の振り返りを丁寧に行い、主体性をもって意欲的に取り組む姿勢が何より大事です。

【備考】

実務経験：昭和52年4月より平成19年3月まで北九州市事業団にて勤務。

平成19年10月より平成20年10月まで社会福祉法人相生会福岡保育園にて保育士（産休代替職員）として勤務。

平成20年10月より平成22年3月までみやこ町立犀川保育所にて保育士（産休代替職員）として勤務。

平成22年4月より平成24年3月まで築上町築城保育所にて保育士（嘱託職員）として勤務。

平成24年4月より平成26年3月まで京築保健福祉環境事務所にて家庭児童相談員として勤務。

平成26年4月より令和5年3月まで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校非常勤講師として勤務。

令和5年4月より現在に至るまで学校法人戸早学園北九州保育福祉専門学校専任教員として勤務。

※保育実習Ⅰの実習日誌、実習報告書・自己評価を授業に使用します。いつでも使用できるよう準備をしておいて下さい。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:enomoto@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail: